

開講専攻	授業科目	担当教員	必修 選択 の別	単位数
看護学専攻 ----- 6, 7 セメスター	母性看護学実習	吉沢 豊子	必修	2
授業題目	生涯を通じた女性と家族に対する支援			
授業科目の目的・概要及び到達目標等 <p>女性健康科学原論、母性看護方法論での学習をふまえて、生涯を通じた女性とその家族の健康を考慮しながら、その機能を十分に発揮できるような健康支援のあり方や包括的な看護について学ぶ</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 性と生殖の健康問題を持つ女性の理解と看護支援のあり方について理解し、健康支援の方策を提示することができる 2. 周産期にある家族が経験するさまざまな変化について理解し、健康支援の方策を提示することができる 3. 地域で生活する対象（母子・周産期・子育て期・思春期・更年期など）に対して行われている健康支援について理解することができる 				
授業計画 <p>実習は週単位で婦人科病棟と産科病棟（あるいは施設）を交代しながら行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 性と生殖の健康支援（婦人科実習） 女性特有の疾患について学習するとともに、疾患に基づいて生じる生体反応について情報収集し、アセスメントすることができる。また、それぞれアセスメントに基づき、グループごとのカンファレンスにより現在将来において必要となる看護支援について深く考え、具体的な支援策を提示することができる。 2. 周産期にある家族の健康支援（産科病棟実習） 妊娠・分娩・産褥期を通して家族が経験する変化について理解することができる。また、産褥期に獲得が望まれる育児支援に関する知識・技術について習得し、対象に対して看護支援として提示することができる。 <p>1,2とも支援策を考えるに当たっては、既存の文献をもとに論理的に考えること</p> <p>実習場所：東北大学病院，仙台赤十字病院 子育て支援グループ（検討中）</p>				
成績評価の方法及び基準 <p>実習記録、実習態度、出席状況をもとに総合的に判定する</p>				
教科書・参考書				